

令和6年度第4回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日 時	令和6年11月13日（水）13時00分～14時56分
開催場所	横浜市役所 28階N03会議室
出席者	岡部委員長、野原副委員長、木村委員、宮尾委員、杉崎氏
欠席者	六川副委員長、恵志委員
開催形態	一部非公開
議 題	<p>1 審議事項 新高島駅地下1階展示場及び隣接道路区域運営事業者公募の結果について</p> <p>2 報告事項 事業評価の進捗状況について</p> <p>3 その他</p>
決定事項	
事務局	<p>【開会】 ○令和6年度第4回横浜市創造界限形成推進委員会を開催する。</p>
事務局	<p>【挨拶】 ○にぎわいスポーツ文化局文化芸術創造都市推進部長から挨拶が行われた。</p>
事務局	<p>【資料確認】 ○配付資料の確認が行われた。</p>
事務局	<p>【定足数の確認】 ○委員6名中4名（うちオンライン2名）が出席しており、委員会は成立となる。</p>
事務局	<p>【会議の公開・非公開】 ○横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条により、審議会等の会議は原則公開だが、例外が認められており、本日の審議事項、新高島の件については、同条例第7条第2項に規定の非開示情報に該当するものが含まれていることから非公開とする。よろしいか。</p> <p style="text-align: center;">（了承）</p>
事務局	<p>○ここから岡部委員長に進行をお願いする。</p>
岡部委員長	<p>審議事項：新高島駅地下1階展示場及び隣接道路区域運営事業者公募の結果について ○まず、審議事項、新高島駅地下1階展示場及び隣接道路区域運営事</p>

	事務局	<p>業者公募の結果について、事務局から説明をお願いしたい。</p> <p style="text-align: center;">＜事務局より公募結果を説明＞</p>
	岡部委員長	<p>報告事項：事業評価の進捗状況について</p> <p>○事業評価の進捗状況について、事務局からお願いしたい。</p>
	事務局	<p style="text-align: center;">＜事務局より資料5に基づき説明が行われた＞</p>
	岡部委員長	<p>○それでは、御質問、御意見等はあるか。</p> <p>僕から1点、表現の変更提案として、アーティストやデザイナーではなく、クリエイティブな活動を行う人々という表現に変更する提案。これにより、芸術系に偏らず、個性的な魚屋さんやカフェの運営者なども含めることができる。</p> <p>2点目、図の変更についてだが、横浜都心から郊外に展開する流れを示す図に変更することで、郊外で新しい地域プレーヤーが出てきて、メンター的な役割を果たすサイクルを示すことができるのではないか。</p> <p>そう考えていくと、創造的にぎわい形成のターゲット層に市民を含めることで。新高島は企業がターゲットだが、旧第一銀行や象の鼻では市民や来街者の多様なライフスタイルに作用することを考慮する。</p>
	野原副委員長	<p>○拠点全体のアウトカムの絵、目指す姿で、委員長がおっしゃった左側のクリエイティブな活動を行う人というのは、クリエイティブな活動をする人を増やすことが目標なのか、それともターゲットなのかがはっきりしないと思った。クリエイティブな活動を行う人たちをどんどん増やして、自律的に社会課題を解決するための具体的な目標やアプローチがもう少しクリアになるといいと思う。</p> <p>例えば2004年の最初の創造都市は、人数やターゲットが書いてあったので、このぐらいの人たちを相手にこういうことをやろうとしているというのがある程度わかった。</p> <p>今回もどうアプローチするのか、どういう形でそこに到達しようとしているのかがわかると、目標が明確になり、クリエイティブな活動を行うという概念をもっと広げることができる。</p> <p>星取表の左側にある「ターゲット」は手段であり、右側の「経済」や「ブランドイメージ」が目的に近いと思うが、国外の人をターゲットにするのは、国際的なブランドを作るための手段であり、目的ではない。逆に、国際的なブランドができるのであれば、日本人をターゲットにしても良いのではないか。もう一つ、客体から主体へ</p>

		<p>の行動変容を目指すと書いてあるが、これが一番難しく、なかなかそう簡単にはなれない。僕が教えればなるものでもなく、自分で気づかないとなれないし、簡単なようで、これが一番大変。ただ、そのときに、最初からできそうな人を集めて育てるのと、100人をできるだけそっちに持っていくのは全然作戦が違う。今回どの辺をレンジとして狙っているのかというのがもう少しみんなと共有できると動きやすいかなと。</p> <p>岡部委員長 野原副委員長</p> <p>○客体から主体にするのは、おそらく戦術の一部だ。</p> <p>○市民全員がクリエイティブになろうと言っているのか、それとも小さなクリエイティブな活動をたくさん生み出して、最終的にみんながそれに参加するような状態を目指しているのか、そのあたりのイメージがいくつかあるのではないかと感じた。そこがもう少し明確になると、みんなが動きやすくなるのではないと思う。</p> <p>杉崎氏</p> <p>○その表現は、リーダーシップを持つ人材を増やすとか、もともと街にいるリーダーシップのある人を見える化するなどの方が分かりやすいかもしれない。客体から主体というのは、リーダーシップを取る人が街にたくさんいて、クリエイターや企業の人がネットワークを作って交流しているということだと思う。</p> <p>岡部委員長</p> <p>○まねできるかどうかということだと思う。リーダーまでいなくても、こういうことだったら自分もできるという人は自分でやる、そっちになっていけるかどうかというほうが、ハードルの低さがありそうな気がする。今のリーダーシップ的なものは、コーディネーターとか、クリエイターとか、そっち側がなっていくところなのかなと。</p> <p>杉崎氏</p> <p>○そこにエンゲージする人、参加する人と段階的にみたいなこと。</p> <p>岡部委員長</p> <p>○然り。それがセミナーだけではなく、そういう場がいろんなところにできていったときに、それこそ旧第一銀行に何かの機会で行きました、行ったときに感化された上で、自分でもやってみようと思ひ、自分の区に戻って何か始めるような人が出てくるというイメージ。</p> <p>木村委員</p> <p>○同じページのところで私も気にかかっていたが、最終的なアウトカムの課題解決は、もっと大きな視野で、そもそもなぜ創造都市でなければならないかということ考えたときの最終目標としては、クオリティー・オブ・ライフが上がる、幸福度指数が上がる、そういったいろんな考え方をすることによって、市民全体のQOL向上、それくらいの大きな話であってよいのではないと思う。</p> <p>市民全員がクリエイティブなアーティストになる必要はなく、多様な生き方をする人、多様な考え方をする人は、アーティストに限らないし、クリエイティブな職種にも限らない。</p> <p>そうすると、その1つ前の体験するところで、必ずしも自らワーク</p>
--	--	---

		<p>ショップに参加する必要もなく、制作する必要もなく、そういう人々がいるクリエイティブな状況が自分たちの生活の周囲にあるという状況が創出されるということが重要なのではないか。</p> <p>クリエイティブな活動を行う人をもう少し絞り込むべきだと考えている。創造界限拠点としては、幅広く対応するのは難しいため、重点項目を設定し、それぞれの拠点に特定のジャンルの役割を持たせることが重要。施設や設備の特性に応じて、舞台芸術やファインアートなどの専門性を持った活動を行う必要があり、重点項目とその隣接領域を明確に示すことで、より分かりやすくなると感じている。</p> <p>岡部委員長 ○拠点が優先なのか、郊外展開を含めた全体の方向性なのかの違いがあるが、拠点はターゲットが絞られていると思う。郊外展開を進める際には、アーティストやクリエイターだけでなく、もう少し幅広いアプローチが必要で、そうしないと、自分がここにいる意味が薄れてしまうと感じる。</p> <p>木村委員 ○そうすると、拠点全体のアウトカムというタイトルと、その下の創造都市施策で目指す姿との間に乖離があると思った。これは2つに分けたほうがいいのでは。先に創造都市施策で目指す姿という形で、市全体を取り巻く状況についての目指す姿が提示されて、その下に拠点が目指すものが紐づいてくるという位置づけになるとクリアなと思う。</p> <p>岡部委員長 杉崎氏 ○確かに。</p> <p>○逆に私は、外から見ていていいなと思った。これまでこの委員会の目的は拠点の評価だったので、創造界限拠点のことしか議論できなかった。今回、初期の条例に制定されていなかった委員会のときのように、創造都市施策自体を委員会で議論していた。どういう方向性に行くのか。今、拠点の評価を考える上で、上位の評価をつくりましようとなっているので、創造都市全体のことをこの委員会で話せる環境が整ってきている。非常にいいことだと思う。</p> <p>事務局 ○タイトルが拠点全体のアウトカムになっているので、誤解を与えてしまったかもしれないが、これまで委員会の中で、拠点のアウトカムを考えるに当たっては、まず、創造都市施策全体のアウトカムを考えないといけないという御意見をいただいていたので、それをまとめたものがこの資料なので、この図は、拠点というよりは、まさしく創造都市施策の目指す姿。その前提で御意見をいただければというところだ。</p> <p>皆さんの意見を伺って、最後の社会課題の解決に活かすというところがいきなり過ぎているのかもしれない、創造都市施策自体の手法というか、考え方は、クリエイティブな活動を社会課題の解決に生か</p>
--	--	---

		<p>していくとシンプルなものであるが、一人一人の行動変容を社会課題の解決にすぐに生かしたいと言ってしまうのは、すごく無理があると思っている。一人一人の行動変容と言っているところと、施策全体の最終目標みたいなものが少しミスマッチというか、いきなり飛躍していると思った。</p>
杉崎氏		○シンプルに創造都市施策が何を指すのかという話。
岡部委員長		○20年前のときは、何かぼんやりとでもあるのか。
野原副委員長		○スタートはまちづくりだと思う。90年代から都心が空洞化し、まちの活気が失われた中で、横浜は多くの資源を持っているが活用されていなかった。そこで、創造性を活用してまちを盛り上げ、豊かにすることがまちの価値を高める有効な手段だと考えられた。目標設定は20年で変わってきていると思う。
事務局		○そうだと思う。
岡部委員長		○2009年に国際会議をやったときには僕も参加したが、あのときはソーシャルビジネス系の話も少し入れ込んでいたと思うが。
杉崎氏		○入っていた。
岡部委員長		○時代とともに少しずついろんなものは盛り込んできている。
杉崎氏		○今までやってきたものがここまで来たから、次にここを目指しますみたいな資料になっていたほうが分かりやすい。
事務局		○野原副委員長におっしゃっていただいたように、スタートは関内外の空洞化があつて、ただ、資源はあると。それを掛け合わせで生かして、こうなつたと思うが、今は資源がだんだんなくなつてきている状態というところもあり、次の課題は何なのかというところだと思っている。
岡部委員長		○その中で、新規軸として郊外展開というのが今出てきているという意味では、課題としてはそっちのほうということか。
事務局		○然り。今我々が思っているのは、地域コミュニティみたいなものだったり、これからの打ち出しになるが、温暖化だったり、気候変動みたいな大きな姿勢の中に創造都市施策というのがどのぐらい関わっていきけるのかどうかみたいなものも少し視野に入れたほうがいいなと個人的には思っているところがある。
岡部委員長		○そうすると、今度は市民の生活とだんだん直結する感じになれば、今までとはまた違って、その中でQOLの向上や、そういうのが含まれていく感じか。
杉崎氏		○ニュータウンの消費的構造みたいなものが転換しつつある話もセットになってくるみたいなこと。
岡部委員長		○まちづくりでも、生活のスタイル、地域ごとのライフスタイルをつくり上げていく、目的としてQOLを高めていくなど、その地域の生活のスタイルを明確にするわけではないが、大切にしていって、ブラ

	<p>野原副委員長</p> <p>杉崎氏</p> <p>野原副委員長</p> <p>岡部委員長</p> <p>野原副委員長</p> <p>岡部委員長</p> <p>事務局</p>	<p>ンディングしていくみたいなこととか。僕は結構そういう形で地域に関わって、アクションを起こしていると思っているが、何か近いのかもしれない。</p> <p>○2種類ある気もしていて、1つは、社会課題が変わってきているので、創造都市の手法は同じでも、取り組むべき課題が変わってきているということ。創造性の良いところは、普通の方法では解決できない問題を新しい考え方で解決できる点で、これがフロンティア育成型の話。</p> <p>一方で、市民も少しくリエイティブな手法を学ぶことで、生活の質が向上する可能性がある。創造性を使ったアプローチは色々あるが、その中で何を選んで横浜の創造政策を進めていくのかが見えると分かりやすくなると思った。</p> <p>○ただ、拠点は都市部にある。そこがまた難しい。</p> <p>○然り。</p> <p>○その拠点を役所が持つのではなく、拠点を持っているところと連携するという形ができるといいのではないか。このまま同じように市が保有してやることは、さすがに難しいのではないか。</p> <p>○セレンディピティーというか、いろんな交流があるという意味では、結局まちなかのほうがいい。掛け算の可能性は、沢山人がいればいるほど当然起こる。一方で、都市か郊外かという概念を捨てるという考え方もある。</p> <p>左近山の小山氏という方が、左近山トリオという新しいコワーキングみたいに関わっているが、3人集まればプロジェクト達成、それで始まるみたいな、それでトリオと名づけてやっている、あれはすごく面白いと思って見ている。</p> <p>クリエイティブコミュニティという話も、今までは、個のクリエイターの話になっていたが、まず仲間を見つける。何人か集まったらスタートといった考え方に変えていくことで、1人ではなく、もう少し開かれた形になって、さらにそこが3人ずつ連れてくれば、ねずみ算になるみたいな。少しずつ広がりをみんなで作っていくみたいな考え方もある。</p> <p>最終的な都市全体のビジョンは、都市と郊外という話が出てくるとは思うが。</p> <p>○ブレストでやっていいと思う。委員会の在り方だが、案が出てきて、それに対して言うだけでなく、ブレストしたものをよりもんでもらうみたいな感じもいいと僕は思っている。</p> <p>○両方の要素があると思う。附属機関になるので。</p> <p>今回は進捗状況の報告なので、気づいた点に御意見いただいて、それを生かしつつ、さらにグレードアップして、各拠点のアウトカム</p>
--	---	---

	<p>野原副委員長</p> <p>岡部委員長</p> <p>杉崎氏</p> <p>岡部委員長</p> <p>事務局</p> <p>岡部委員長</p> <p>事務局</p>	<p>にという流れなので、気づいた点の御意見を今日はいただければ。</p> <p>○1点だけ。最近「アウトカム」という言葉がよく使われるようになっているが、アートにおいては「効果」を指し、その前に「成果」があると考えている。成果から得られる効果を考えることは重要だが、成果が分からないと効果も分からないので、両方を見据えながら進める必要があると思う</p> <p>○達成する状況や、シーンまでは分からないが、アウトカムよりも、こうなるみたいなものが本当は見えたほうが僕は分かりやすいなと思ってしまう。</p> <p>○具体的な姿のようなもの。</p> <p>○然り。</p> <p>○目指す姿とアウトカムは違うのかもしれない。</p> <p>現在拠点とやり取りしている新しい評価シートも、まず、拠点全体としてアウトカムがあり、その上で各拠点が目指すアウトカムを書いていく。それを見ながら、各年度にアウトプットとアウトカムを書いていくつくりになっているので、一応、トータルで把握できるような形にはなっている。皆さんの御意見もいただきながら、シートを作成している 중이다。</p> <p>○ほかによろしいか。では、報告事項は以上とする。</p> <p>その他</p> <p><事務局から郊外部展開の進捗状況や、議事録の確認依頼、今後のスケジュール等について事務連絡が行われた。></p> <p style="text-align: center;">【閉会】</p>
資 料	<p>①次第</p> <p>② [資料1] 委員名簿</p> <p>③ [資料2] 前回議事録（令和6年8月26日開催分）</p> <p>④ [資料3] 新高島駅地下1階展示場及び隣接道路区域運営事業者公募結果</p> <p>⑤ [資料4] 新高島駅地下1階展示場及び隣接道路区域運営事業者選考報告書</p> <p>⑥ [資料5] 事業評価の進捗状況</p>	
特記事項		